

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議 〒113 21
編集責任者：奥野 享
事務局：豊中市環境情報サロン内
〒561-0804 豊中市曽根南町1-4-3
Tel:06-6863-8792 Fax:06-6863-8734

この号のハイライト

P.1 理事長と事務局長の対談/
P.2 とよっぴーの宣伝/P.3 春
を食べよう/P.4 エコカレま
とめ/P.5 竹炭プロジェクト/P.
6 産業見学会/P.7 環境政策室
/P.8 今後のスケジュール

2008年(平成20年)夏号 NO.23 (通巻第41号)

対談 今年の総会を前にして

理事長と
事務局長

問題の所在がいよいよ明白に

井上 昨年のIPCCの報告書によると、地球温暖化の原因が人間の活動によるCO₂をはじめとする温室効果ガスの増加であることが、ほぼ間違いないと明らかになりました。また、今年からは京都議定書の第1約束期間が始まり、CO₂などの削減行動が待たなしになってきました。

新開 私たちが何かやらなければならないということがはっきり

し、しかも、それは次世代の子どもや孫への責任でもあり、世界的には、これまでエネルギーを大量に使ってきた国々の責任でもあると思うのです。

井上 今年のG8に関する議論を見ても、地球温暖化対策が国や地域で政策として進めることが求められています。しかもそれは市民や事業者の実践が伴うものでなければなりません。そこで、これまでNPOが提案してきたことが政策になったり、実施する際にも重要な役割を果たすと認識されています。

新開 これまで私たちもエコライフカレンダー(豊中市民版環境家計簿)などの取り組みを進めてきましたが、この経験とこれまで得られた生の情報と市民の声を活かし、より多くの行動へ広げることが大切です。

井上 新しい取り組みとしては、環境情報サロンにソーラーパネルを取り付け、CO₂削減の課題を目に見え

るような形にする取り組みを始めました。小さくても確実にエネルギーを作り出し、CO₂が増えるようなエネルギー利用を減らしてしていることが実感できます。この設備そのものの効果はわずかでも、多く人が集まる公園の中にあるので、実物を見てもらい、どんどん広がっていけばいいなと思っています。

新開 豊中市では、昨年「地球温暖化防止地域計画」を作り、2050年までに1990年比で1人あたり70%削減するという目標を掲げましたが、

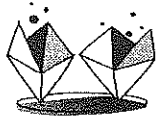
これは市役所だけでなく、市民、事業者も含めた地域全体として、やらなければならない課題を突きつけているものだと思います。しかも、これを実現するためには今すぐ動かなければなりません。

井上 計算上の数値や、机上の概念図づくりだけ

でなく、私たちのこれまでの取り組みを活かしながら地域や生活者の視点を大切に、できるだけ多くの関係者が自発的に集まり動くような取り組みなど、できることがたくさんあるのではないかと考えています。そのためにはNPOとして、新たな課題に対応し、着実に進める体制も必要だと思っています。

新開 NPO全体で新しいステージに向かったチャレンジしていくということですね。現実的な課題はいくつもあろうから、ちょっとした不安と同時にわくわくする期待感も感じますね。市民、事業者、行政と仲間をいっぱい増やして、一緒にがんばっていきましょう。





市民農園更新手続きで「とよっぴー」宣伝

花と緑のネットワークとよなか

4月7日（月）から10日（木）の4日間、市施設やJA北部農協の支店の4カ所で市民農園利用者の契約更新の手続きが行われました。市民農園は土に触れ野菜づくりを通して栽培・収穫の喜びを味わう場として重宝されています。とくに、都市部では農にかかわる機会が少ないことから、新たな余暇の活用としても近年注目をされていますが、花と緑のネットワークでは、市の了解を得て契約更新の4会場前で「とよっぴー」の宣伝活動を実施しました。

この目的は、土づくり（畑土壌の改良）の基本で

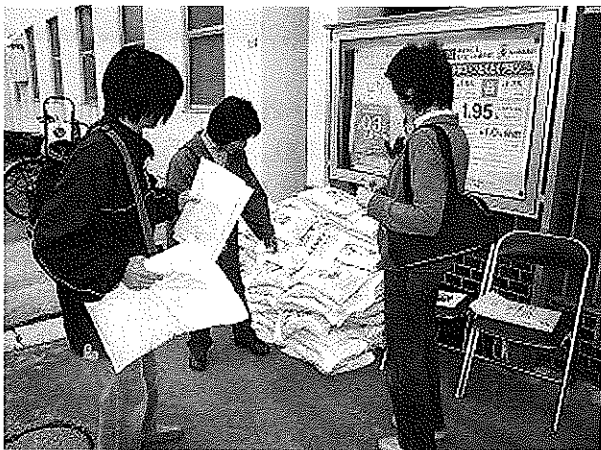
ある保水力や土壌の肥沃化に役立てていただくために「とよっぴー」の活用を啓発するもので、現地では、それぞれ手続きを終えた方に「とよっぴー」頒布日の告知ビラと、堆肥化講習会の案内文を配布し、あわせて「とよっぴー」の試供品（2.5kg）を提供しながら有機性資源の活用の意義を訴えました。

訪れた方に試供品を提供すると、土づくりの工夫、肥料の扱い、さらには作物栽培の方法など多くの相談が寄せられました。中でも、前の利用者がどのような作物を育てたか不明で、しかも農薬・肥料の使用実態などもわからないため、連作と土壌への懸念が強調されていました。

活動に参加したメンバーは、連作による懸念をなるべく少なくするための土の改良方法や「とよっぴー」の活用を丁寧に説明したところ皆さん熱心に耳を傾けられておられました。

この宣伝効果が「とよっぴー」頒布日にどのように反映されるか注視していたところ、4月12日（土）の頒布結果はいつもの2.5倍以上（約130人以上）の購入者があり、宣伝の成果が如実に現われました。なによりも、環境に優しい市民農園の活用を広げるための取り組みとして、やりがいのあるものでした。

（中村義世）



とよなか市民環境会議とNPOアジェンダ21の総会

6月20日には13時30分から豊中市立市民会館で、とよなか市民環境会議とNPO法人のアジェンダ21と二つの組織の総会が続いて開かれます。

総会に先立って行われる今年の記念講演では、立命館大学の元教授和田武さんを招いて話を聴くことになりました。テーマは「地球温暖化防止と自然エネルギー」。

これまでの主力エネルギー源である石油、石炭、天然ガスなどに代わり地球環境に負荷をかけない太陽光発電、風力発電、バイオマスをはじめとする「自然エネルギー」が次世代のエネルギー源として大きな注目を集めています。

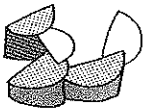
未来を担う子どもや孫たちに少しでもマイナスの遺産を残さないために、いま私たちに出来ることは何かを真剣に考えたいときだと思います。

なお和田武さんは現在「自然エネルギー市民の会」の代表。専門は環境保全論、資源エネルギー論です。

著書に『飛躍するドイツの再生可能エネルギー』（2008年6月出版予定）や『市民・地域が進める地球温暖化防止』など多数。洞爺湖サミットを前にして時宜に適したホットな話が聞けそうです。



昨年の記念講演会



自然部会

島熊山緑地「森と池の生き物観察会」で春を楽しむ

島熊山緑地協議会主催・アジェンダ21自然部会共催の自然観察会が4月12日に行われた。ポカポカ日和の中、近隣の住民や市内各地からの参加者22人がまず古池に向かった。事前に水中に仕掛けられたセルピンを上げて観察が始まる。大小のブルーギルが数匹入っている。初めて見る人も多く「きれい！」という声も聞かれた。講師の柿本修一さんから、釣り人によってブルーギルが池に入れられた後フナ等の在来種が激減していると思われること、ブルーギルは在来種に比べ繁殖力が強いこと、多様な生き物が棲むには浅瀬も必要であること等のお話を聞き、今後の古池の管理のあり方を考えさせられた。



更に山に入り、皆の顔が緑色に染まるような新緑の下、時折聞こえる野鳥の声に耳を澄ます。森の気に浸りながら、もう一人の講師の岡恒夫さんから、この森がコナラやアカマツ等の高木とコバノミツバツツジ等の中木、ヒサカキ等の低木という重層的な構造を持っていることを聞き、足元の落ち葉をめくりながら循環して土に還っていく様子を観察した。折りしも花盛りのコバノミツバツツジに加えアケビやサルトリイバラ等の可愛い花々にも出会え、小さな発見もいっぱいのお観察会だった。この日唯一の小学生男子の「初めて魚にさわって嬉しかった」の音が印象に残った。
(易信子)

自然ふしぎ発見クラブ “春を食べよう” IN 服部緑地

見る、聞く、触る、嗅ぐ、味わうと五感を養うプログラムを実施してきましたが、野にある植物を採集、料理して食べることは初めてでした。

3月22日(土)10時西中央広場で集合して開会。講師は豊中市在住の「摘み菜を伝える会」社ひとみさん、参加者は21人(子どもは10人)でした。スタッフと5日前に下見をして、レシピを作成。採集のルール(必要以上に摘まない等)の予備知識をもって、日本庭園北東側から観察と草摘みをスタート。コオニタバコ、タンポポ、ヨモギ、ツクシ、ノビル、セリ、など14種以上の野草を採取。可愛い花も観察しました。

菰ヶ池草地(自然学習ゾーン)でも野草採集。小さな水の流れのそばに、ツクシがいっぱいあり大喜び。ツクシつみが初体験の子どもがほとんどでした。

つぎに野草を種類に分類して、説明と料理の開始です。

メニューは春菜のマーク焼き・パリパリ天ぷら・ヨモギシュガー・ノビルツナ和え・竹茶(島熊山の雑木

林を守る会製)の5品でした。

使う水や調理器具など一切講師とスタッフで持ち込み準備が大変でしたが、参加者の協力のもと時間と競争で調理の開始後、つぎつぎ完食されて嬉しい悲鳴でした。

子どもたちの感想は「野草をはじめて食べた。おいしかった」保護者からは「身近なところでおいしさを発見できた」「沢山野草があり驚いた。今日のことは参考になります」など。

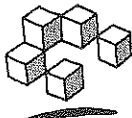
野草は大切にしつつ活用すれば、楽しく暮らしに生かせる身近なものと、理解していただけたのではと思います。
(上田峯子)



レシピ

【春菜のマーク焼き】

ホットケーキミックス200gとキャロットジュース160mlを混ぜ、油を引いたフライパンにスプーン一杯ずつ流す。表面がプツプツしてきたら野草をのせてひっくり返し、火が通ればハチミツなどを付けていただく。(野草はカラスノエンドウ、クローバー、ヨモギ、スギナ、ヤブジラミなど)

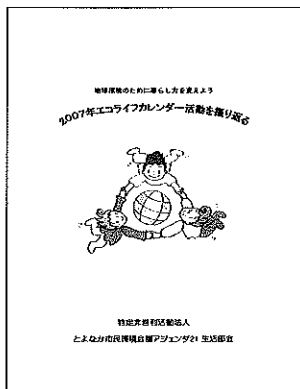


生活部会

エコライフカレンダー活動のまとめができる

昨年1年間のエコライフカレンダーの活動(豊中市民版環境家計簿)のまとめができあがりました。

活動のまとめをつくる際には、毎年いろいろと議論があるのですが、この1年間についても振り返ると豊かな内容に満ち溢れていました。



た。さっそく省エネ対策として石油ストーブからエアコンやガスファンヒーター、ホットカーペットをメインにした暖房に切り替えた経験の報告もありました。

総合的に言えるのは、冬の暖房を使う期間は12月から3月までで4カ月と長いですが、夏の冷房は7月から9月までと期間が短いことも省エネに関係するなど、学習会の話を実践した報告がありました。

また、最新のインバーターエアコンに切り替えたことによる省エネの報告も興味ある話題でした。

(奥野)

暖冬だったのが数値にもでていた

1年前の冬は12月まで寒かったのに、1月になって暖冬の日々がつづいていました。モニターの仲間からの声にも暖冬だったという感想がみられました。モニター全体の二酸化炭素排出量を数値で見ても、前年に比べ11%ほど少ない数字が出ていたので、なぜだろうとさらに詳しく調べてみたところグラフでは明らかに1~3月頃の二酸化炭素排出量の合計が少なくなっており、とくにそれを電気・ガスの排出量のグラフにしてみると、やはり差がはっきりと表れていました。(右の2つのグラフ)

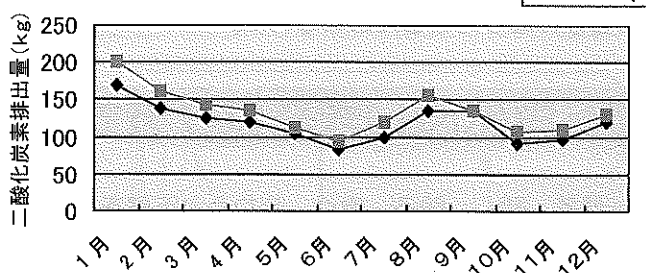
その他、モニターの集計では、ガソリンの使用による二酸化炭素排出量が全体に占める比率は24%で、その比率は去年と比べてもほとんど変わっていませんでした。ただ、一般的には、マイカー使用による二酸化炭素排出量はかなり大きな比率を占めるのではないかと感じている方も多いのではないかと思います。日本全体の調査(温室効果ガスインベントリオフィス、1990~2004年のデータ)を見ると31.0%になっていました。

私たちモニターの数値が低いことの原因については、数字以上のことは分かりませんが、私たちの住む豊中市の場合公共交通機関が発達していることや、モニターの構成がおそらく一般の統計よりも平均年齢が高いのではないかなども考えられます。でもこれらは想像でしかありません。

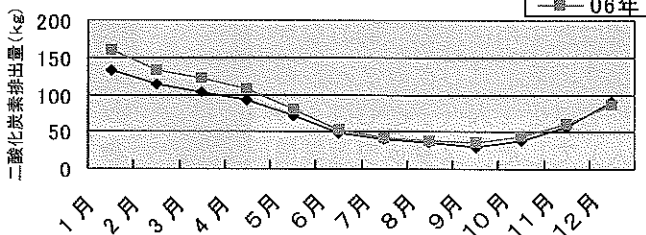
冬の暖房についての事例研究

学習会でも、冬の暖房による二酸化炭素排出は、夏の冷房によるよりも比率の大きいことを聞きました

電気の使用について前年と比較する



ガスの使用について前年と比較する



環境クイズ

太陽光発電の設置ブームがやや下火になっている感じもありますが、世界でいま太陽光発電を最も多く導入している国はどこでしょうか。①もちろん日本、②オランダ、③ドイツ。(答は8ページ)



春は竹の激動期 ～タケノコ・竹の秋・地下茎～

竹炭プロジェクト

千里中央公園の竹林は中に入って見ると以外に広い。今まで自然環境保全の立場から竹の間伐を行ってきた。それも大分進んだことでもあり、今度は竹林内の整備を、手始めに公園設立当時の有刺鉄線があちこちに散らばっているのを撤去したい。竹林の南側はもとも雑木林だった所で、その再生をめざして間伐をしてきた。とはいっても竹を全部無くするわけではない。木々とのバランスを考えて適度に残すことになる。

竹も大切な天然資源である。われわれが伐っている竹は竹炭焼きに大いに活用している。製品は消臭用として、水の浄化に、土壌改良材などにも利用されている。このモウソウチクを炭焼きの材料や食材の素として大切に扱い、箕面寄りの北半分を竹林として残す。市民が親しめる憩いの場として雑木林、竹林双方を守るのがわれわれの役目と思っている。

ところで、4月はタケノコが採れるし市民にも楽しんでいただいたが、この時期は竹の落葉期でもある。このことは、「竹の秋」といって陰暦の3月に当たる。秋とは言っても俳句の世界では春の季語、黄葉した竹林が4月いっぱい続きやがて一面落葉だらけとなる。しかしこれが大変すべりやすく特に斜面での作業は危険を伴う。踏ん張ってもずるずるとすべり落ちて止まらない。

タケノコは節にある芽子(がし)が伸びたもので、2月中旬から少しずつ成長し3月下旬からタケノコとなって顔を出す。地下茎からは2年目以後6～7年の間は



タケノコとして出てくるがそれ以後は出なくなる。

一方地下茎はどうなっているのか、4月26日のイベントの際に掘ってみたら、地下5～10センチ位の所を縦横無尽に走っている。地震がおきたら竹藪に逃げろというのが分かるような気がする。これらは去年のものかそれ以前のもので、4～5センチ間隔で節がありそれぞれに15センチ程の根が沢山ついていて地下茎を守っている。新しい地下茎は5月下旬から伸びだして9月頃まで伸び続け3メートル以上になる。

さて、われわれの今後は今までの活動にもう少し楽しみの部分を加えてみたい。公園オープン以来40年が経ち今では樹木も大きく成長し、珍しい野鳥も飛来、多くの昆虫も見られるようになった。従来の活動にこれらの観察会を組み合わせたいイベントなどを考えている。

(三宅史郎)

環境とわたし

⑪

梶田潤一さん

花と緑のネットワークとよなか



伴侶が堆肥化の講習に行ったのがきっかけでした。それから花と緑のネットワークの活動に参加し、堆肥頒布のための袋詰め作業を主に担っています。相当の重労働である袋詰めを、元気いっぱいやっているからでしょうか、いつの間にか皆から「青年部長」とやゆされています。でも、メンバーと雑談しながらいい汗をかくことも気に入っています。

今年4月の最初のとよび一頒布は130人以上の市民が買いに来られ、てんてこ舞いでしたが、嬉しいやらしんどいやら複雑な気分の内に快い疲労感を味わいました。

花と緑のネットワークの活動を通してアジェンダ

21の会員になっていますが、日々の生活の中で少しでも社会活動に参加することにより、世間の動き——とくに環境問題で市民がやらなければならないことを自覚するいい機会になっています。

お互いに一年々々年をとっていきますが、体力が続く限り参加するつもりです。

理屈でなく皆と一緒に汗をかく中で、少しでも自分も役に立っていれば良いかなと思っています。

そして、アジェンダ21がもっと多くの市民に開かれた組織になればよいと思っています。

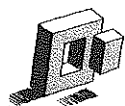
温暖化防止の拠点らしく エコSUN市民発電スタート



3月18日朝10時から、市民の皆さんの貴重な寄付によって動き出すエコSUN市民発電の点灯式をおこないました。実行委員長新開悦子さんのあいさつに続き、てしま保育園の園児24人が「太陽さんもっとなんばって」と歌い、遊戯を披露してくれました。

その後、実行委員長から豊中市長浅利敬一郎さんへ寄贈の目録を手渡しし、市長・実行委員長・そして3人の園児が点灯のボタンを押しました。

設置されたソーラーパネル12枚の定格発電量は2.1キロワット。設置場所が西向きなので心配していましたが、5月の晴れた日の昼ごろでは1.3キロワットも発電していました。



産業部会

森永乳業と朝日新聞の現場

2月13日朝9時、工場見学の42人は市役所第二庁舎に集合しバス2台で出発しました。

午前の見学は神戸の摩耶埠頭にある森永乳業神戸工場です。造っているのはヨーグルトやカフェラッテ、その他病人用の流動食などです。原料になる生乳は冷却車で酪農地から運ばれてくるので、見ることは原料をパックする製造ラインでした。

2006年にスタートしたばかりの神戸工場では省エネや自然エネルギーの活用にも努めていると説明されました。たしかに玄関脇には小型風力発電もあり、少し横に入ったところには小型水力発電も動いていました。報告によると840kWhの発電が見込まれていると、これは工場ですら使った水を処理して海に流す、そのエネルギーの利用です。ラインを流れていた乳製品の容器もプラでなく紙製品であったのが目を引きましました。

一通りの説明が済んだ後、紙コップに入った牛乳が配られましたが、そこに少量の酢を入れてかき混ぜると、あらあら不思議カッテージチーズの出来上がりです。見る見る変化するチーズ作りに全員が驚きの声をあげました。

午後に見学したのは朝日新聞の印刷工場。ガラス越しに見たのは重さ1.4トンもある巨大なロール紙。それを無人の搬送車が運び、輪転機の給紙部に持って行きます。高速で回転しているロールの紙が少なくなると自動で新しいロールに取り替えられるそうです。よく考えるとロールが小さくなって回転の速いロール



朝日新聞阪神工場

が、回転の遅い太いロールに問題なく取り替えられるのですから、不思議としか言いようがありません。それも朝刊なら32ページですから、裏表8ページずつを4台の輪転機で刷り、コンベアの手前で一つにまとめてでてくるのです。そんな複雑な工程が時間との勝負をしながら淀みなく流れています。

環境と省エネへの配慮としては、新聞販売店から梱包のバンドやプラスチックの包装などすべて工場へ回収しリサイクルしているとのこと。また、外壁の広いガラス面は自然光を取り入れて明るく、昔の印刷工場になかった雰囲気。トイレの照明も人が出て行けば自動的に消えるのだそうでした。(奥野)

地球温暖化防止と循環型社会の形成に、 公民協働で取り組みます

とよなかの環境Ⅱ～2006年度評価と今後の展望～を発行しました

豊中市は、環境報告書「とよなかの環境Ⅱ～2006年度評価と今後の展望」を発行しました。

本書は、「2006年度の環境目標の状況と取り組みのふりかえり」「審議会評価と市民意見ならびにそれに対する市の考え方」「今後の展望」で構成されています。資料編には、条例や計画などの一覧、2006年度実施事業と2007年度計画施策の内容、モニター指標の経年数値などのデータベースを掲載しています（市のホームページからご

覧いただけます）。

2008年度からの新たな環境関連の取り組みは、◎下水道地震対策緊急整備事業◎豊中市企業立地促進条例に基づく事業の推進◎（仮称）レジ袋削減条例の制定および推進◎工業立地法関連届出業務◎放置自転車解消の取り組みです。

■市民団体・事業者のみなさんの2007年度の環境への取り組みをお知らせください。「とよなかの環境Ⅱ」に掲載します。
 (問) 環境政策室 ☎6858-2128
 Fax:6842-2802)

■2006年度の環境目標の状況(「とよなかの環境Ⅱ～2006年度評価と今後の展望」より)

環境目標	目標値	2006年度値	進捗状況
協働型活動参加者数 [とよなか市民環境展参加者数]	市内人口の 0.5%以上	0.85% [3,300人]	◎ 目標値に達しました
1人あたりのCO ₂ (二酸化炭素)の 排出量	対1990年度比 4～5%減	4.1%減	○ 目標値に近づきました
1人あたりのエネルギー消費量	対1990年度比 2%減	2.8%増	○ 目標値に近づきました
ごみの純排出量	2011年度ごみ 発生予測量の 33%削減	27.9%減	× 数値が悪くなり、目標値から遠ざかりました
緑被率	17%	—	× 数値が悪くなり、目標値から遠ざかりました
雨水浸透率	0.21	0.250	◎ 目標値に達しました
環境基準の達成状況 (大気汚染物質、騒音等)	100%達成	93.2%	△ ほぼ横ばいで推移しています



太陽エネルギー利用設備を 設置しませんか？

家庭生活で排出される温室効果ガスの大幅な削減に効果がある、太陽光発電システム・太陽熱利用システムの設置に対する補助をはじめました。

■内容=「太陽光発電システム」太陽電池の出力1kWあたり5万円、上限20万円まで補助。「太陽熱利用システム」設置費用の5分の1、上限6万円まで補助。

■募集期間=平成20年(2008年)5月15日から平成21年度(2009年)1月30日まで。ただし、先着順で受け付け、申し込みが予算額に達した時点で終了。

※いずれも着工前に申し込みのこと。

■ 問環境政策室 6858-2127



夏の省エネルギーキャンペーン

「クールビズ」で、さわやかに

6月1日～9月30日

電気、ガスなどのエネルギーの消費を抑えると、温室効果ガスの排出が削減できます。

地球温暖化防止のため、冷房時の室温を28度に設定し、職場でも家庭でも軽装スタイルで夏を過ごしましょう。

スケジュールのお知らせ

自然ふしぎ発見クラブ 「葉っぱで遊ぼう」

6月28日(土) 10時~12時
千里中央公園

自然学習講座 「大阪のセミと環境の変化」

6月23日(月) 18時30分~20時30分
豊中市立中央公民館

自然学習講座 「化学物質と私たちの暮らし」

7月7日(月) 18時30~20時30分
豊中市立中央公民館

セミのぬけがら調査説明会と観察会

7月12日(土) 10時~12時
豊中市立中央公民館~豊島公園

竹きり(6月~9月)

毎月実施します。 9時~12時
千里中央公園 詳しくは事務局まで

おもちゃ病院(6月、8月)

第2土曜日 10時~12時
豊中市環境情報サロン

とよっぴー有料頒布(6月~9月)

第2土曜日&第4水曜日 10時~11時
緑と食品のリサイクルプラザ
(7月の第4水曜日と8月は休みます)

豊中まつり

活動パネルの展示、自然工作など(予定)
8月2日(土)、3日(日)
豊中市環境情報サロン

編集室から

▼最近、排出量取引のことが話題になります。欧州では早くから取引所が作られ現実化していたとか。日本では遅すぎるのだが環境省あたりで試算されているのはトン当たり500円ぐらいとか。私たちが環境家計簿をつけていると1年間の家庭からの排出量は2~3トンぐらいだから金額にすると…。(Z)

▼夕方、迷子になった子どもの名前を母が呼び続けている。しばらくすると「良かった、ありがとう」がかすかに聞こえた。黄色のサンダルをはいた子どもを見たタクシー運転手さんの機転で見つけたのです。「運転手さん、ありがとうございます」おばあちゃんの家に来ていたのできごとでした。(H)

▼先日お風呂場の水道栓のパッキン交換を、この歳になって初めてなんとか自分ですることができました。水滴のポタリポタリがピタッと止まって、「やった!」と気分爽快。あのときの満足感はずいぶん長持ちして私を楽しませてくれました。(Y)

▼環境省は2050年、温室効果ガスの排出量を1990年比の70%削減した低炭素社会実現に向けた脱温暖化プロジェクトを発表。これを実現させるには、物理的な対応と並行して、国民の抜本的な意識改革に向けた学校教育の充実を図ることが急務と思う。(S)

▼すがすがしい風が吹く春の季節は過ぎ、一気に夏がやってきた。生活に関わるいろいろなものの価格が上がって、安全でいいものを無駄なくと、以前より頭を働かすようになったかな。今年はゴーヤ植えてみようかな。(K)

▼「冒険遊び場」ってご存知ですか? プレーパークとも呼ばれ、規制だらけの公園ではなく、子どもが自分たちでやりたいことを考え実現できる遊び場です。先日豊中でも学習会が開催されましたが、是非実現するといいですね。(J)

▼我が家では、2基目の雨水タンクを取り付けました。花壇の水遣りなどバケツに汲んで運ぶのが結構大変で、早くホースを取り付けてー!と叫ぶ私。了~解!と、いい返事の夫ですが、いったい何時になるやら…。(P)

環境クイズの答 ③ドイツです。太陽光発電はかつて日本の独壇場でしたが、2004年ごろからドイツに抜かれ、今では日本の倍近くをドイツは太陽光発電で賄っています。(朝日新聞より)

ご寄付のお礼

エコSUN市民発電へのご寄付をいただきありがとうございます。募金活動は継続していきます。どうぞよろしくお願ひします。

《広報チーム》

Z奥野、H岡、Y小村、S猪尾、K大井、J井上、P大村

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~toyonaka/>
Eメール ecoshimin@kmd.biglobe.ne.jp